

番号	1-2-1	表題	日本最長の超長距離下水道シールド施工について ～千代田幹線整備事業～	
内容	<p>東京の区部下水道は、現在約 16,100km にも及ぶ膨大な管きよを管理している。その多くは老朽化が進み、東京都下水道局では再構築事業を推進しているところである。飯田橋幹線、中段幹線、低段幹線等の汚水幹線は大正時代に整備され老朽化が著しい一方で、常に流下量が多く高水位状態であり、再構築工事に先立つ調査も困難な状況にある。そのため、新たな代替幹線を整備し下水の流れを切り替えることで、既設幹線の水位を低下させ、再構築工事を推進することが必要である。その代替幹線の一つが現在整備中の千代田幹線である。</p> <p>また、千代田幹線は合流式下水道の改善の役割も担っている。外濠および日本橋川の水質改善のため、外堀通り等で貯留施設整備を進めており、完了時に千代田幹線と接続することにより、雨天時において公共水域へ放流される汚濁負荷量を削減することが可能となる。</p> <p>千代田幹線工事は、1 スパンの施工延長が下水道シールドとしては日本最長となる約 8.7km、最大土被り約 60m の超長距離、大深度での施工であった。本工事を安全かつ速やかに進めるため、様々な対策を講じたので報告する。</p>			
キーワード	千代田幹線 シールド工法 大深度 長距離			
処理区名	芝浦処理区	位置区分	管きよ	
職種区分	土木	施策区分	再構築	
状態区分	工事	新規性		
実施年度		全体期間	平成 30 年度～令和 5 年度	
担当部署	第二基幹施設再構築事務所 工事第二課			
発表履歴	局内			
	局外	令和 5 年度 第 60 回下水道研究発表会		
調査方法				
関連情報				